



会津農林事務所農業振興普及部だより

Vol. 267(平成30年9月12日発行)

編集・発行 ■ 会津農林事務所農業振興普及部 農業振興課 0242-29-5303
住 所 ■ 〒965-8501 地域農業推進課 29-5306
会津若松市追手町7-5 経営支援課 29-5307
HP ■ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240a/> 有機農業担当 29-5317

菊地清一・裕美子御夫妻（磐梯町）が第59回福島県農業賞を受賞！



菊地清一・裕美子御夫妻

平成30年9月7日（金）に杉妻会館（福島市）において、第59回福島県農業賞表彰式が開催され、磐梯町法正尻集落で「ハウレンソウ（施設

＋水稻）の複合経営を行っている菊地清一・裕美子御夫妻が、農業経営改善部門で県農業賞を受賞しました。

福島県農業賞は、本県農業分野で最も権威ある賞であり、先駆的な生産技術に意欲的に取り組み、模範として将来にわたり地域農業の振興を支えると認められる優れた経営体等を表彰しています。

菊地御夫妻は、昭和58年からハウレンソウ栽培に取り組み、補助事業を活用してパイプハウ

スを増設し、施設化を進めてきました。労働力軽減及び収穫作業の効率化のため、平成20年には梱包機を、平成26年には収穫機を導入し、積極的に先進技術を導入しています。現在、施設栽培ハウレンソウ面積は80 a までに拡大しています。

また、平成27～28年度には磐梯法正尻ほうれん草生産部会長として、地区全体のハウレンソウの品質保持や安定販売に向け、出荷開始時から全量をJAの雪室予冷庫を活用した流通体制に切り替えるなど、地域全体の営農改善に取り組み産地の発展に貢献すると共に、平成17年から県指導農業士として町内農業者の指導や町内外の研修者受け入れなど後進の育成にも積極的に取り組んでいます。

菊地御夫妻は優れた農業経営を展開していると共に、地域農業の担い手育成や産地の維持発展に大きく貢献していることが高く評価され、今回の受賞となりました。

祝！JA会津よつば猪苗代稲作部会JGAP団体認証取得

平成30年7月27日（金）にレイクサイド磐光（猪苗代町）において、JA会津よつば猪苗代稲作部会JGAP認証取得祝賀会が開催されました。

JGAPは、国内の大手小売業者、食品業者、農業者が参加し、一般財団法人日本GAP協会が策定した日本の第三者認証GAPで、今回の認証取得は、県内では7番目、会津地域では初の団体認証となります。

当部会は平成28年度から、猪苗代町産ブランド米「いなわしろ天のつぶ」をカタール、アラブ首長国連邦等へ輸出するなど、県内でも先駆的な取組を展開していますが、昨年9月にGAP認証取得を目指して第三者認証GAP推進班を立ち上げ、食品安全や環境保全、労働安全等の項目に沿って改善活動を続け、5月15日に認証を取得しました。

団体認証を取得するまでには、部会員の意識醸成や施設内の整理整頓、各マニュアルの整備等、苦労も多かったということですが、今後の維持審査に向けて、毎月、勉強会を開催して部会員一人一人の資質向上を図る等、さらなる改善活動を継続しています。

会津農林事務所では、関係機関・団体と協力し、当部会に続く団体認証の取得をより一層推進して参ります。



祝賀会の様子

（左から3人目から猪苗代町 前後町長、会津農林事務所 野内所長、猪苗代稲作部会 小林部会長、JA会津よつば 五十嵐専務）

福島県オリジナル品種を栽培しませんか？

福島県では、県内の農家向けに様々な品目で県オリジナル品種を開発しています。今回は会津で栽培可能な品種のうち、当部おすすめの4品種をご紹介します！！

もも

①「ふくあかり」



交配親は「川中島白桃」×「福島8号」で2016年に品種登録された世に出て間もない最新の県オリジナル品種です。育成地（福島市飯坂町）での収穫時期は7月下旬～8月上旬で「暁星」とほぼ同時期～3日後に収穫することができます。果重は250g～300gと早生品種としては大果です。糖度は12度～14度と甘味が多く果汁がたっぷりの食味良好のモモです。果肉はやや硬めで日持ち性に優れています。果皮色は縞状に着色してからその後全面に着色するのが特徴的です。

②「はつひめ」



交配親は「あかつき」×「はつおとめ」で2008年に品種登録されました。収穫時期は7月上旬で「日川白鳳」より7日ほど早く成熟します。糖度は10～14度とこの時期としては甘味が多く果重は220～300gで早生品種としては大果です。滑らかな食感で口に広がる豊富な甘い香りとたっぷりの果汁が特徴的で非常に食味が良好です。花粉がないので摘果作業の省力が図られます。核割れの発生は少なく、生理落果や裂果は認められません。

りんご

「べにこはく」



交配親は「ほおずり」×「陽光」で2016年に品種登録されました。包丁で切ると、まるで‘琥珀’のような蜜が果肉いっぱい詰まっていることから「べにこはく」と命名されました。「ふじ」より遅い11月下旬～12月上旬に成熟する晩生品種で日持ち性に優れ、年明け以降本格的に販売する品種です。果汁が多く、糖度は15度程度で酸味も強く濃厚な味わいです。食感は硬めでシャキシャキと噛みしめることができます。加工適性も高く、ジュースにするときれいな赤色を100日間保つことが可能です。また、コンポートやジャムにすると他にはないおいしさが味わえます。

アスパラガス



「ふくきたる」

アスパラガスの主要産地である本県が年月をかけて開発した県オリジナル品種です。市場関係者からは味が濃く、食感が良いと好評価を得ています。また、全国的な主力品種の「ウェルカム」に比べて、生育が旺盛で収量性が高いことや、低温伸長性を有するため、春の萌芽が早く、単価の高い時期に出荷できることから、収量・収入の向上が期待できる品種です。

詳細は農業振興普及部経営支援課（電話：29-5307）までお問い合わせください。

適期刈取りと稲わらの適切な処理で極上の会津米をつくりましょう！！

今年は7月より高温が続き、稲体の消耗と栄養凋落が懸念されたため、追肥等による対策を呼びかけてきたところですが、出穂が極端に早まったことや登熟期間の高温により、刈取り時期が早まる可能性があります。また、刈取り適期が短くなるおそれもありますので、刈取り作業の準備を万全に行い、籾の黄化状況を必ず確認し、適期刈取りを徹底してください。

また、稲刈りが終了すると「稲わら焼却」が

一部のほ場で見られておりますが、**健康被害**や**交通障害**、**火災**への不安など、地域住民からの苦情も寄せられているところです。極上の会津米産地としてのイメージダウンにつながらないように、稲わらは燃やさず、すき込んで土壤に還元するなど有効に活用しましょう。

適期刈取り及び稲わらの有効活用（ほ場へのすき込みなど）の詳しい情報は、銘柄米生産情報等をご覧ください。

米の全量全袋検査受検をお願いします！

平成30年産米も、県産米の安全性確保と一層の信頼向上のため、引き続き全量全袋検査を実施しますので、皆様には、御理解と御協力をお願いします。

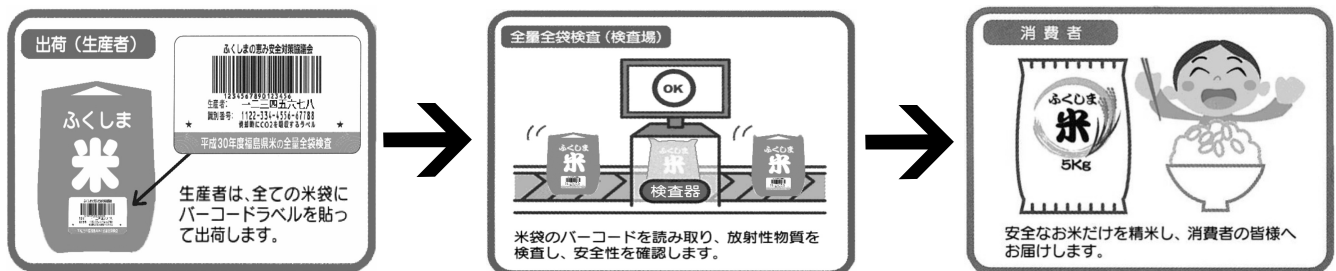
【検査の対象となる米】

出荷・販売する「出荷用米」、「ふるい下米」、自家消費用の「飯米」、親戚などに配る「縁故米」、「小分けして直売するお米」など、県内で収穫された全ての米が検査対象です。

【検査の内容】

検査の内容や手順などは前年度と同じです。詳細は各市町協議会にお問い合わせ願います。30年産米産米検査のバーコードラベルは「水色」となります。

【検査の流れ】



畑作物（穀類）のモニタリング検査について

畑作物（穀類）はモニタリング検査結果が公表されるまで、出荷・販売はできません。生産者の皆様は、各市町の県の検査結果を確認の上、出荷・販売を行うようお願いいたします。

【検査対象品目（各市町1点以上）】

- ・大豆（青豆・黒豆含む）
- ・そば
- ・麦類（小麦、大麦）
- ・雑穀類

なお、雑穀類（小豆、ダツタンソバ、アワ、キビ、ヒエ、ハトムギ、アマランサス、食用ソルガム、ライ麦等）については、これまで検査実績のない品目が検査対象となります。

※管内では、小豆（会津若松市、磐梯町、猪苗代町）とキビ（磐梯町）は検査済です。

モニタリング検査の結果はインターネットの「ふくしま新発売（<http://www.new-fukushima.jp/>）や県環境保全農業課（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/>）で公表されています。

また、穀類の市町村別モニタリング検査状況は県水田畑作課（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/>）でご確認下さい。その他、ご不明な点は会津農林事務所農業振興普及部地域農業推進課（電話：29-5306）までお問い合わせ下さい。

9/1～10/31は秋の農作業安全運動実施期間です。安全を確認して作業を行いましょう！！

「オーガニック農産物！親子収穫体験会in会津」を開催しました！



会津農林事務所と会津オーガニック匠の会等は、8月4日（土）に会津若松市近郊の有機農産物ほ場、および「道の駅あいづ湯川・会津坂下」において仙台市内の親子12組と会津地域の有機農業者との交流会を開催しました。

ミニトマトとブルーベリーの収穫体験では、

「ミニトマトやブルーベリーがとても甘く、たくさん収穫しました！」「自分で収穫するのは初めてだったので、楽しかった！」といった声を聞くことができました。

道の駅での交流会では、有機農産物たっぷりのカレーライスやサラダをみんなで味わい、また、有機農産物の抽選会を通して交流を深めました。参加した親子から「会津の有機農産物を応援します！」「会津が大好きです！」、等のエールをいただきました。

今後も、このような取組等により有機農産物の生産振興、販売拡大を支援していきます。

頑張ってます！会津の担い手 管内の若手生産者を紹介します！

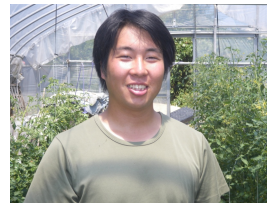
佐藤栄祐さん(磐梯町・夢農園佐藤)



平成26年度に就農した佐藤栄祐さんは、施設トマトを栽培しています。実家は兼業農家で、高校卒業後、他産業に就職しましたが、自らの裁量で様々なことに挑戦できる

農業に興味を持ち、就農を決意しました。昨年、農業生産工程管理の国際的な基準を示すGLOBAL G.A.P. 認証を取得し、また、肥料を全量有機肥料とした試験栽培に取り組むなど、消費者の皆さんに喜んでもらえるトマトをお届けすべく、日々、トマトに真摯に向き合っています。今後は、トマトのない時期にも自分の栽培したトマトを味わってもらえるよう、トマトの加工にも挑戦してみたいと考えています。

長尾康大さん(会津若松市・長尾農園)



平成29年度に就農した長尾康大さんは、トマトとネギの有機栽培に取り組んでいます。専業農家の長男に産まれた康大さんは、高校卒業後自衛隊に入隊。東日本大震災を契機に、家業の農業を通して地元

に貢献したいと考えて就農しました。

「野菜の味」にこだわった栽培を実践。気温や土壌水分等を自動で感知するセンサーを開発するなど、先進的な取組にも挑戦中です。将来は、販路や技術を整備して、より多くの方が有機農業に取り組めるような体制づくりを目標に、日々頑張っています！

会津で農業始めませんか？ 就農相談会INあいづを開催します！！

会津地方で農業を始めたい方を対象に相談会を開催します。「就農したいけど何から始めればいいのか？」「どんな品目を栽培すればいいのか？」などの様々な相談に応じます。興味のある方はお問い合わせください。

○日時 平成30年11月17日（土）12:30～16:00

○場所 会津若松ワシントンホテル 飛翔の間（会津若松市白虎町201）

○内容

(1) 就農説明会

会津地方の農業の概況や、就農にあたってのおすすめ品目の紹介、管内を代表する新規就農者の体験発表を行います。

(2) 個別相談

就農を希望する方へ、新規就農者を支援する制度や作物毎の技術的な特徴など、それぞれの方の希望を踏まえながら、就農実現に向けた個別相談を実施します。

(3) 現地見学

新規就農者のほ場を実際に見学します。

○主催 福島県会津農林事務所

詳細は、農業振興普及部地域農業推進課（電話：29-5306）までお問い合わせください。